

「考え、議論する道徳」の授業づくり

～道徳科を要とした道徳教育の充実に向けて～



令和2年3月
山口県教育委員会

道徳科を要とした道徳教育の充実に向けて

☆ 道徳教育と道徳科の目標について、確認しましょう。

◆ 道徳教育の目標

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己（人間として）の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる**道徳性を養う**ことを目標とすること。

※（ ）内は中学校

【小・中学校学習指導要領 第1章 総則 第1の2の（2）】

◆ 道徳教育と道徳科の関係

学校における道徳教育は、特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、（外国語活動）、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒（児童）の発達の段階を考慮して、適切な指導を行うこと。

※（ ）内は小学校

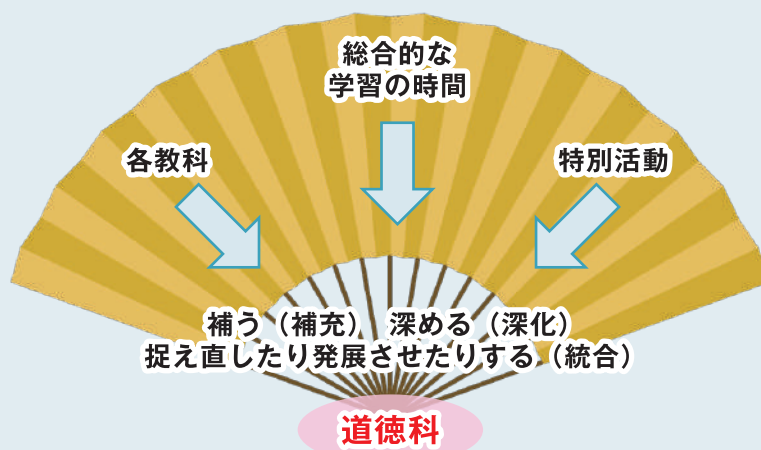
【小・中学校学習指導要領 第1章 総則 第1の2の（2）】

◆ 道徳科の役割

特に、各教科、（外国語活動）、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育としては取り扱う機会が十分でない内容項目に関わる指導を補うことや、生徒（児童）や学校の実態等を踏まえて指導をより一層深めること、内容項目の相互の関連を捉え直したり発展させたりすることに留意すること。

※（ ）内は小学校

【小・中学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳 第3 指導計画の作成と内容の取扱いの2】



◆ 道徳科の目標

第1章総則の第1の2の（2）に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる**道徳性を養う**ため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、**道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる**。

※（ ）内は中学校

【小・中学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳 第1 目標】

道徳科の授業づくりのために

確認しておくこと

- ① 学校の重点内容項目、授業の内容項目、学習指導要領解説
- ② 内容項目に対する指導者の明確な考え（価値観）
- ③ 内容項目に対する児童生徒の現状把握（児童生徒観）
- ④ 価値観、児童生徒観に基づく教材活用（教材観）

明確な価値観・児童生徒観・教材観をもつことで、授業のねらいがはっきりし、道徳的価値の理解に結び付く授業になります。



内容項目分類の4つの視点

- A 主として自分自身に関すること
- B 主として人との関わりに関すること
- C 主として集団や社会との関わりに関すること
- D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

児童生徒にとっての対象の広がり即し、4つの視点によって内容項目を構成して示しています。

教材の分析

- ① 育てたい道徳性（道徳的判断力、心情、実践意欲と態度）
- ② 内容項目に対して中心に考えさせる場面
- ③ 中心的な発問と他に必要な発問
- ④ 効果的な指導方法（多様な指導方法）

育てたい道徳性、考えさせる場面によって発問は変わります。自己を見つめるための発問も必要に応じて考えます。

効果的な指導方法の例

問題解決的な学習

- 問題場面における考えの根拠を問う、道徳的価値の意味を考える学習方法
- (例) ・ 本当の友情とは何だろうか
- ・ その行為を選んだわけは何だろうか

道徳的行為に関する体験的な学習

- 実際の場面を実感を伴った活動により、解決に必要な資質・能力を養う学習方法
- (例) ・ 役割演技
- ・ 行為の体験

読み物教材の登場人物への自我関与中心の学習

- 登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考える学習方法
- (例) ・ どうして、このような行動をとることができたのだろうか



検定教科書の使用

主たる教材として教科用図書を使用します。補助教材として、県教育委員会が作成した資料や文部科学省が作成した教材なども活用できます。各市町で作成した教材も含め、補助教材を使用する場合には、指導する内容項目に漏れがないかを確認し、年間指導計画に位置付けておくことが大切です。別業も含めて、しっかり見直しをしましょう。

教科用図書以外の教材を使用する場合には、児童生徒の発達の段階に即し、ねらいを達成するためにふさわしいものである必要があります。また、多様な見方や考え方で深く考えることができるものなど、児童生徒の道徳性を養うという観点から考えて、より大きな効果を期待できるという判断を前提として検討することが重要です。

「考え、議論する道徳」授業づくりの手順

具体的には、「主体的に、自分との関わりで、多様な感じ方や考え方と出会い交流する授業」です。答えが一つではない道徳的な課題を一人ひとりの児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する授業」を構想していきましょう。扱う内容や教材に応じて、指導方法を工夫することが大切です。



ねらいは？

指導の内容や教員の指導の意図を明らかにします。
年間指導計画を基に考えます。



指導の重点は？

ねらいに関する児童生徒の実態と、各教科等での指導との関連を検討して、指導の重点を明確にします。

教材を吟味する①

次のポイントを踏まえ、教材分析をします。

【教材の分析】

- 1 「どのようにして道徳的価値の理解を深めるか？」
 - どのようにして「価値理解」「人間理解」「他者理解」を図るか。
 - どのようにして自分との関わりで道徳的価値を捉えさせるか。
- 2 「中心的な場面は？」
 - ねらいや価値観、児童生徒観に基づいて、道徳的価値の理解を深めるためにふさわしい場面はどこか。
- 3 「中心的な発問は？」
- 4 「中心的な発問を生かすための発問は？」

児童
関わる
を検討



重要語句の解説

【道徳的諸価値の理解】

価値理解……人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること

人間理解……道徳的価値は大切であるが、なかなか実現できない人間の弱さも理解すること

他者理解……道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解すること

【道徳性の諸様相】

道徳的判断力……それぞれの場面で善悪を判断する能力

道徳的心情……道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情

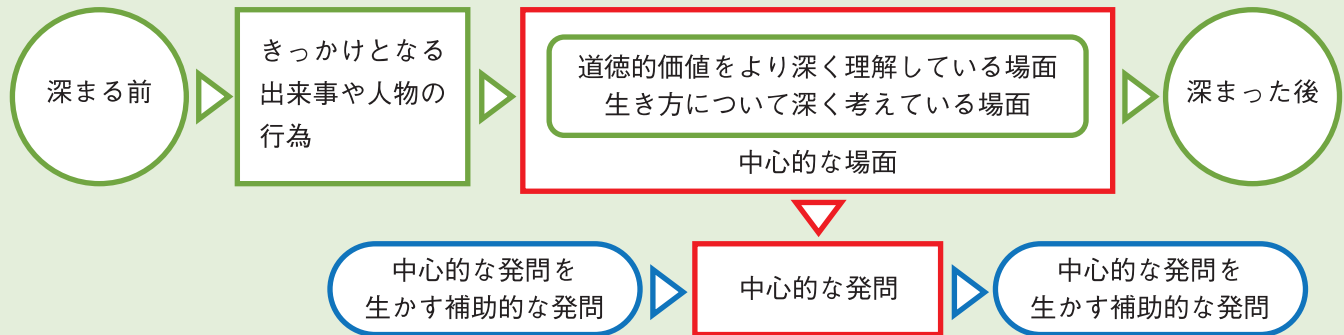
道徳的実践意欲……道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし、道徳的価値を実現しようとする意志の働き

道徳的態度……道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え

教材を吟味する②

【読み物教材の分析】

～登場人物における道徳的価値の理解を深めていく流れ～



【発問づくり】 ～発問の具体例は～

- 「なぜ～したのだろうか」
- 「～はどんな気持ちだろう」
- 「自分だったらどうしただろう」
- 「こんなとき、どうすればよいのだろうか」
- 「なぜ～は大切なのだろうか」
- 「～のことをどう思う」
- 「どうして～できたのだろうか」
- 「何が問題になっているのだろうか」 など

教材は？

生徒に考えさせたい道徳的価値に事項がどのように含まれているかします。

学習指導過程は？

ねらい、児童生徒の実態、教材の内容などを基に、授業の展開について考えます。



考え、議論する道徳

学習指導過程を構想する

道徳科の特質を十分考慮した学習指導過程や指導方法を工夫することが大切です。

【特質】 道徳的諸価値についての理解を基に、

- 自己を見つめる
- 物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える
- 自己（人間として）の生き方について考えを深める ※（ ）内は中学校

【導入の工夫】 ○ 主題に関わる問題意識をもたせるようにしましょう。

○ 教材の内容に興味や関心をもたせるようにしましょう。

【展開の工夫】 ○ 教材に描かれている道徳的価値に対して児童生徒一人ひとりの感じ方や考え方を交流し、考えを深めるようにしましょう。

○ 主題を明確にし、児童生徒が問題意識をもち、自分との関わりで（人間としての生き方についての）考えを深めていく学習にしましょう。

【終末の工夫】 ○ 児童生徒一人ひとりが、自らの道徳的な成長や明日への課題などを実感でき、確かめることができるようにしましょう。

道徳科の評価の在り方

◆ 道徳科における評価

児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

【小・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第5章 第1節】



- 数値による評価ではなく、記述式による評価
- 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価
- 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価
- 道徳科の学習活動に着目し、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子の把握による評価

ここがポイント！

☆ 次の点を重視し、道徳科の目標に明記された学習活動に注目して評価を行います。

「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか」

- 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え、考えようとしている
- 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている
- 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を（広い視野から）多面的・多角的に考えようとしている 等 ※（ ）内は中学校

「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか」

- 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている
- 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している
- 道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている
- 道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている 等

Q & A

Q. 道徳科における評価の意義は？

- A. それぞれの授業における指導のねらいとの関わりにおいて、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を様々な方法で捉えて、個々の児童生徒の成長を促すとともに、それによって自らの指導を評価し、改善に努めることです。

Q. 「学習状況や道徳性に係る成長の様子」を評価するとは？

- A. 道徳科の評価は、あくまで道徳科の授業における評価です。授業の中で児童生徒が、「どのような学習活動をしたか」「どのような見方・考え方をしていたか」「どのように道徳的価値の理解を深めたか」について評価をします。

Q. 「大きくくりなまとまりを踏まえた評価」とは？

- A. 一つ一つの内容項目ごとに、その内容項目についてどのくらい理解したかを評価するのではなく、道徳科での学習活動に着目し、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、評価を行います。

Q. 評価を行う上で留意する点は？

- A. 特に、次の2点に留意します。
- 入学者選抜の合否判定に活用することのないよう調査書に記載しないこと
 - 発達障害のある児童生徒や海外から帰国した児童生徒、日本語習得に困難のある児童生徒等に対して、一人ひとりの学習上の困難さの状況を踏まえた指導と評価を行うこと

道徳科の評価の進め方のイメージ

学 校

【組織的・計画的な推進】～校長及び道徳教育推進教師のリーダーシップの下に～

- 評価資料や評価方法等の検討
- 評価結果の検討
- 評価の視点等についての共通認識
- 実践事例の蓄積・共有 等

学 級

【教員と児童生徒の人格的な触れ合いによる共感的な理解】～日々の学級経営の充実～

<道徳科の授業>

児童生徒についての評価

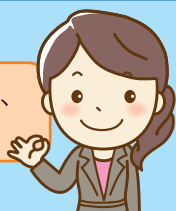
学習状況や 道徳性に係る成長の様子

- 多面的・多角的な見方へ
- 自分自身との関わりで



- 観察や会話、作文やノートなどの記述、質問紙 等

成長を受け止めて認め、
励ます個人内評価



授業についての評価

ねらいの設定

確かな指導観をもち、期待する学習
を明確にした指導計画

<授業の振り返りの視点>

- 学習指導過程
- 発問
- 発言等の生かし方
- 教材や教具の活用
- 指導方法・指導の手立て
- 特に配慮を要する児童生徒への対応 等

ねらいの達成

評価のための工夫

- 児童生徒が年度途中や年度末に自分自身を振り返る学習の設定
- 授業に関わった学級担任以外からの意見や所感の活用 等

保 護 者

【指導方法や評価方法に関する理解の促進】

- 指導計画や指導方法、評価方法の事前説明（学校だより等）
- 保護者会等における評価結果の説明 等

道徳科の授業づくりのポイント

☆ 授業づくりの際に、チェックしてみましょう。

授業づくりのポイント	チェック
① 学習指導要領解説や年間指導計画に基づいたねらいを設定していますか。	
② 教材は、内容項目に照らして、考えさせたい場面や事柄を取り上げていますか。	
③ 自分との関わりで主体的に考える場面がありますか。	
④ 考える必然性や切実感のある発問になっていますか。	
⑤ 友達や教員と感じたことや思ったことを交流する時間を設定していますか。	
⑥ 発問や方法を工夫して、多面的・多角的に考えさせる場面がありますか。	
⑦ 効果的な指導方法（問題解決的な学習や体験的な学習等）を取り入れていますか。	
⑧ 自己の生き方について考えることを意識させる場面がありますか。	
⑨ 児童生徒が自己を見つめ、振り返りをする時間を設定していますか。	
⑩ 評価方法や重点的に見取る視点を決めましたか。	

自分のこととして捉え、深く考えることができるよう、以下の「効果的な指導方法」を参考に、道徳科の授業改善に取り組み、児童生徒の心を育てていきましょう。

問題解決的な学習

- 多面的・多角的な思考を促す問題の設定
- 道徳的価値に根差した問題に関わる学習
- 議論し、探究するプロセスの重視

話し合いの工夫

- 自由に意見を出し合える雰囲気づくり
- 効果的な話し合いの仕方
(討議形式・ペアでの対話等)

体験的な学習

- 役割演技等の疑似体験的な表現活動
- 道徳的行為に関する体験的な活動
- ねらいに基づいた活動

発問の工夫

- 児童生徒の思考に沿った発問
- 考える必然性、切実感のある発問
- 自由な思考を促す発問
- 物事を多面的・多角的に考える発問

情報モラルと現代的な課題

- 道徳科の特質を生かした指導
(情報モラルに関わる題材を生かした話し合い等)
- 身近な問題と結びつけた指導
- 発達段階や特性に応じた指導

板書を生かす工夫

- 違いや多様性を対比的・構造的に示す工夫
- 中心部分を浮き立たせる工夫
- 児童生徒の考えを取り入れる工夫

家庭や地域社会との連携

- 積極的な授業公開
- 保護者や地域の方々の授業参加
- 家庭や地域の協力による教材の開発

学習指導要領解説には、その他の指導方法の工夫として「教材を提示する工夫」「書く活動の工夫」「動作化、役割演技など表現活動の工夫」「説話の工夫」が例示されています。

